

精神看護方法論(看護学科 3 年次)の授業紹介

～精神科病院におけるレクリエーション・リラクゼーションの実際について～

平成 23 年 7 月 26 日 (火) に、精神科におけるレクリエーション・リラクゼーションについて、ノーブルメディカルセンターの鬼頭和子副看護部長さんが講義をしてくださいました。

長期入院している患者さんへのレクリエーションを用いた援助について、実際にどんな風な様子で行われているのかを、わかりやすくお話し頂きました。バスハイキングや夏祭り大会、運動会、料理教室、手芸や芸術、音楽や園芸など様々な取り組みをご紹介頂きました。

また、精神的な苦悩から多くの患者さんの身体の緊張は強く、このようなリラックスできていない患者さんたちの身体の緊張をほぐし、心地よさを体験して頂くために、数年前から取り組んでいるフットマッサージを用いた援助についても、ご紹介頂きました。フットマッサージの具体的な手順と、その結果、症状の改善や患者さん自ら声をかけてくるといった意思疎通の改善などの変化について教えて頂きました。精神科看護におけるフットマッサージについては、その効果や意義についての実証的研究は非常に少なく、ノーブルメディカルセンターでは看護として実践を行いつつ、これを研究的に評価を行っているということでした。鬼頭さんご自身は、多忙なお仕事の傍ら、現在、本学の大学院でフットマッサージをテーマにした研究に取り組まれておられますが、学部生からも質問が複数あり、有意義なディスカッションの時間をもつことができました。

来月にはタイにマッサージ研修を受けに行く予定であることも教えてくださり、「帰ったらしてあげますよ」と笑顔で言われる鬼頭さんに、講義終了後もさらに詳しく知りたいと質問がありました。3 年生は、後期に入ると、いよいよ臨地実習が始まりますが、精神看護に限らず、



レクリエーション、リラクゼーションについて講義をして下さった鬼頭さん。

様々な領域の実習において、マッサージやタッチングも看護技術の一つとして活用できそうです。精神障害をもつ患者さんにとっての社会復帰は、精神科医療における大きな課題の一つであり、現場で常に患者さん中心の支援を在り方を模索されている鬼頭さんのお話はとても魅力的で、クリエイティブに看護を作り出す看護師の役割を考える機会となりました。

精神看護学 (鈴木、伊礼、平上)



質問をする学生さん。